

(様式)

常任委員会行政視察報告書

委員会名	経済建設常任委員会	委員名	菅原範明
視察地	新潟県村上市		
調査事項	村上市スケートパークについて		
視察年月日	令和5年11月14日(火)		
視察内容	<p>スケートパーク設置の経緯、施設の概要、施設の管理運営、施設の利用状況、スポーツ振興への取組、成果と課題、今後の展望などについて視察を実施。</p> <ul style="list-style-type: none">・村上市の人口は約55,000人。県の北端に位置し2008年に5市町村合併で県内最大の面積を有する。古くは日本海に面した城下町で武家屋敷や文化財が多く現存。・主産業は農業で「岩船米」と、他に村上茶や鮭料理が有名である。・村上市はスポーツで地域改革を始動させるため、官民連携型組織（スポーツコミッション）を立ち上げ「むらかみ」をスケートボードの聖地にと呼びかけ、2019年4月に村上市スケートパークをスタートさせた。・トップレベル競技者が集中的・継続的にトレーニング・強化活動を行うための競技別強化拠点施設（NTC）として取組をスケートパークで始動した。地元出身のスケートボーダーには、北京オリンピック金メダリストの平野歩夢選手がいる。・施設概要は、敷地面積：17,294.75㎡、構造：木造一部鉄筋コンクリートCLT一部採用、建築面積：1,985㎡、施設内容：1階アリーナ（パーク、ストリート）、ボルダリング、多目的室、更衣室、事務室）2階トレーニングコーナー、ランニングコース、観客席（290席）、駐車場131台となっている。・スケートボード建設の経緯は、①日本海スケートパークの老朽化②スケートボードが東京オリンピックの正式種目に選定されたことにある。・建設の課題は財源確保と限られたスペースの確保であった。年間運営費は43,402千円（人件費除外）運営自主財確保の一部には、有料広告の募集なども行っている。・令和4年3月にスポーツ庁長官よりナショナルトレーニングセンター強化拠点施設の指定を受け全国的に知られるスケートボードのメッカとなった。現在は16自治体を構成団体とする全国スケートボード施設連絡協議会を設立し、施設の課題解決や普及推進のための連携、スケートボード競技の発展、生涯スポーツの推進と地域振興に寄与などを目的に、全国的な連携がとられている。・競技者は、幼少や小学生から大人までと実に幅広く、近年は競技人口も急激に伸ばしている。 <p>・村上市は、このスケートパークの建設によりスポーツで地域改革を成し遂げた先進地となった感がある。</p> <p>・旭川市は積雪寒冷地といった土地柄ではあるが、冬のスポーツ振興においてその環境の整備は不十分であることから、スケートボード場を含め他に、スキー場の更なる整備、スキージャンプ台、スケートリンク、アイスホッケー場、カーリング場など、地域改革の一</p>		

(様式)

環として位置付け早急な整備が必要であり、市民の健康管理や観光振興、経済波及効果にも寄与していく重要な施策の一部であると考えます。

※ 「視察内容」欄には、調査結果に対する意見、本市における実施の可能性、課題等を記載すること。

(様式)

常任委員会行政視察報告書

委員会名	経済建設常任委員会	委員名	菅原 範明
視察地	新潟県長岡市		
調査事項	市街地再開発事業「米百俵プレイスマライエ長岡」		
視察年月日	令和5年11月14日(火)		
視察内容	<p>米百俵プレイスマライエ長岡設置の経緯、施設の概要、管理運営、利用状況、成果と課題、今後の展望などについて視察を実施。</p> <ul style="list-style-type: none">・長岡市は人口約26万人、新潟平野の南端に位置し、古くは長岡藩の城下町として栄え「米百俵」の逸話で知られる。水稻の作付面積、収穫量ともに全国屈指。・米百俵プレイスマライエ長岡設置の経緯は、人口減少や産業の担い手不足などさまざまな課題を解決し、100年先の長岡を創っていくためにはこれまでの固定概念にとらわれない人づくりと産業振興が欠かせないことから、大手通坂之上町地区の市街再開発事業でその拠点となる施設「米百俵プレイス」を整備することになる。・同地区は「米百俵の精神」から生まれた国漢学校の施設に位置し現在は北越銀行本店や長岡商工会議所がある。この中で「人づくり・学び・交流エリア」は、①人づくり・学び②産業振興③にぎわいの3つの観点で機能を整備し、人と交流することで多くの情報が得られ、新しいチャレンジの機会に出会える複合施設を目指した。・令和7年度に全館の完成を目指しているが、今回はその一部の西館が完成し本年7月22日にオープンとなった。敷地面積約3,463㎡、建築面積約2,754㎡、鉄骨造地上10階。・ミライエ長岡が担う3つの役割については①人づくり学びの場（※未来の長岡を支える新しいスタイルの図書館（互尊文庫））②産業づくり・交流の場（※産学の交流・連携による人材育成、商品・サービスの開発、学生や若者が起業しやすい環境と新たなビジネスの創造を目指す）③にぎわい（※多世代が気軽に集い交流する場、さまざまなイベントにより新たなにぎわいの創出）がある。・市民、利用者の声は大変良好で、きれい、すてき、立派、モダン、開放的、デザインが斬新、快適な空間、雰囲気すばらしい、集中できる、居心地のいい空間、1日居ても飽きないなど。又、特に図書館が好評で、ジャンル分けや選書がすばらしい、新しい本、気になる本が多い、平置きや特集毎に本が置かれている、フタつきの飲み物や軽食、会話もできる。・学習や談笑したりなど若者が自由に空間を楽しんでいる。聴覚障害者が対応できるように指差しボードを新たに設置。 <p>・今回、長岡市の視察を終え、旭川市にも還元できる数多くの要素が見えてきた。</p> <p>・特に買物公園を中心とする中心市街地活性化の取組については、大胆な構想と発想の転換が必要であって、今後は長岡市の「米百俵プレイスマライエ長岡」の3要素のコンセプトにならい、旭川の慢性的な不況からの脱却と、市内外からこの町に住みたいと思える未来に夢のある新しいまちづくりに一刻も早く挑戦しなくてはならないと感じた。</p>		

(様式)

常任委員会行政視察報告書

委員会名	経済建設常任委員会	委員名	菅原 範 明
視 察 地	東京都小金井市		
調 査 事 項	観光振興について（現地視察：江戸東京たてもの園）		
視察年月日	令和5年11月15日（火）～16日（水）		
視 察 内 容	<p>・ 小金井市は東京都のほぼ中央で、都心から約25km西方に位置し人口約12万人。</p> <p>・ 地域の特徴は、東京都のベッドタウンとして発展し観光地ではない。商工業の集積は近隣自治体で最も少ない。自然環境に恵まれ小金井桜が有名。小金井公園、武蔵野公園といった広大な公園を有していて整備がなされ多くの市民の交流の場となっている。又、3市魅力向上プロジェクトという、武蔵野市、三鷹市、小金井市の3市が連携し、行政、観光関係、団体、市民、事業者が持つ経験やノウハウを最大限に生かしながら地域が共通に持つ資源を発掘・活用し3市の市民を中心とした交流人口の拡大を図るための事業を展開している。</p> <p>・ わくわく都民農園設立の経緯は、都市農地の保全と高齢者の活躍と多世代・異分野交流を目的に東京都が開設した農園を地域交流拠点として運営し、農園発の多彩な活動を展開している。</p> <p>・ 因みに江戸東京野菜の種類は49品目にも及ぶ。農園は、シニア農園、福祉農園、地域農園、こども農園、共菜園がありそれぞれの農園でさまざまな事業が展開されている。また農園では、テイクアウトや野菜の販売、ランチも味わえる。</p> <p>・ 旭川市においては農業のみならず市民が交流するさまざまな場が提供されているが、現在、本市が取り組んでいる上川大雪圏連携といった大きな枠組について尚いっそう連携を図り、道北管内全体の価値を高め、国内外にPRしていくことが、地域経済の活性化に資するものと考えられる。</p> <p>・ 小金井公園には、江戸東京博物館分館の「江戸東京たてもの園」があり、都内に存在した江戸時代前期から昭和中期までの、現地保存が不可能な文化的・歴史的価値の高い建造物を移築・復元・展示することにより、貴重な文化遺産として次代に継承することを目的に設置された野外博物館である。</p> <p>・ 設立は平成5年で敷地面積は約7haを擁する。敷地内は3つのゾーンに分かれており、西ゾーンには10戸、センターゾーンには6戸、東ゾーンには14戸と、その時代に関連したものがいくつか展示されている。</p> <p>・ それぞれの建物は、当時のものを実に忠実・正確に再現されていて、一部にはその建物の庭も再現されている。</p> <p>・ 年間観覧者数は平成30年がピークで約27万人、本年3月末で累計は約686万人となっている。</p> <p>・ 管理運営形態は、指定管理者の公益財団法人東京都歴史文化財団で、資料管理、収蔵建造物の管理、武蔵野郷土館から引き継いだ約2万6千点の資料を管理し、特別展を年に3回程度と、年間を通してさまざまなイベントを開催し都民の憩いの場ともなっている。</p> <p>・ 旭川市またその近郊においても、多くの文化的・歴史的価値の高い建造物が多く点在し</p>		

(様式)

ているが、残念ながら保存状態は良いとは言えない。旭川市として市民の文化意識の高揚を図ることは大事であるが反面、文化財をしっかり管理していくという姿勢が見えないのは残念である。まだまだ歴史の浅い旭川ではあるが、旭川の文化財をどのように保存、活用して、住みよいまちづくりや観光資源などに繋げていくのかなどの課題があり「旭川を文化あふれる町」にするための対策を早急に進めるべきである。

※ 「視察内容」欄には、調査結果に対する意見、本市における実施の可能性、課題等を記載。